# 持続可能な養蜂ビジネスを模索し スクール事業で業界の底上げを目指す

支援テーマ
創 経 地 農 販
海 再 承 も 雇
資 持 IT

## 課題　利益が薄く廃業も相次ぐ養蜂の現状を変える

東日本大震災を機に、サラリーマンから養蜂家に弟子入りした経営者が、2014年に開業した坊ノ内養蜂園。君津市の里山で生産する、希少ながら高品質の国産天然ハチミツは高く評価され、個人客への直接販売や通信販売、道の駅などでの委託販売を中心に、近年では、資生堂パーラーをはじめ、法人との取引や問い合わせも多くなっている。

とはいえ、近年は巣箱資材が高騰しており、利益が薄くなっていた。そもそも養蜂は、気候などの環境に左右されやすく、生産は不安定だ。ミツバチの飼育に人的・物質的コストがかかることに加えて、国内流通量の５％弱である国産ハチミツは、安価な海外産の影響を受け、適正価格になっていないという現状もあった。これを補うために巣箱を増やして生産量を上げたとしても、それだけ人的コストも増大してしまい、質の低下にもつながりかねない。こうしたなか、業界では、高齢化とともに廃業も相次いでいる。今後、自立した養蜂のビジネスを確立していくにはどうすればいいのか。

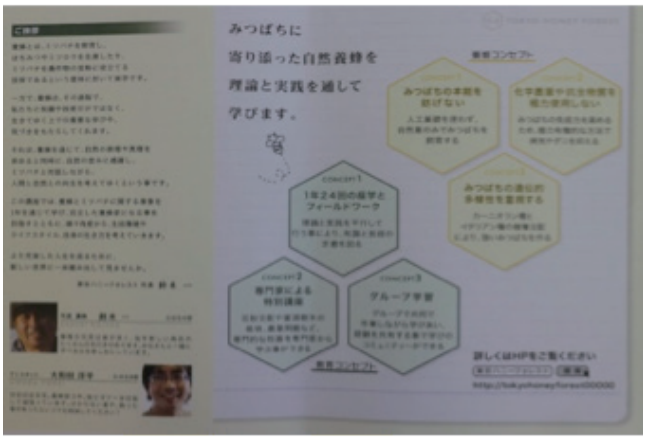
そこで経営者は、新規参入者を育成し、養蜂業全体を盛り上げていくことこそ、個人養蜂家が事業を続けていくために必要なことだと考え、養蜂の知識や技術の習得を目的とした養蜂スクールの運営を計画。事業実施に向け、袖ケ浦市商工会に支援を求めた。

## 支援　生徒募集のための広報ルーツの作成を支援

商工会ではそれまでも、同社に対して小規模事業者持続化補助金を活用した商品のブランディングや販路開拓、事業所の改装などを支援していた。そこで今回も、小規模事業者持続補助金を使った支援を実施。2018 年に生徒募集のための広報媒体の製作をサポートした。

入学パンフレットは、専業の養蜂家を目指す人はもちろん、週末に養蜂を楽しみたいというサラリーマンや主婦層、定年後のライフワークや家庭菜園として楽しみたいというシニアまで、幅広い世代をターゲットにわかりやすい内容に。広報・宣伝的な PR のみならず、実際に入学に際しての初期の不安や質問に対応することができた。

同時に、ホームページも作成した。養蜂理念や年間の教育カリキュラム、入学金や年間授業料などを明確に表示し、真剣に受講を考えている人たちが熟考しやすい環境を整えた。



作成した養蜂スクールのパンフレット

こうした広報活動によって、問い合わせも 20 件ほどあり、2018 年のスクールの開設後もホームページで授業風景や最新情報などを発信している。同社では、今後卒業生を増やしていくことで、環境依存型の養蜂だけではない事業収益を確保し、自立型の新しい養蜂ビジネスを伸ばしていく考えだ。また、養蜂スクールよりも手軽な２～３時間の収穫体験も実施しており、同社製品のコアなファンづくりにも役立てていきたいという。

### 支援の経過

| 期間 | 支援内容 |
|---|---|
| 2015年5月～ | 持続化補助金の申請・実行支援（販路開拓） |
| 2016年5月～ | 持続化補助金の申請・実行支援（改装等） |
| 2017年2月～ | 持続化補助金の申請・実行支援（野外店舗） |
| 2019年5月～ | 持続化補助金の申請・活用支援（広報媒体制作） |
| 12月～ | 養蜂スクールの事業実施支援 |

### 会社概要

会社名：坊ノ内養蜂
住所：千葉県袖ケ浦市下泉1064-2
電話番号：0438-55-2200
URL：http://tokyohoneyforest.com
代表者名：鈴木 一
創業年：2014年
従業員数：０名
商工会名・担当者名：袖ケ浦市商工会・大熊賢滋